様式2

都市再生整備計画　事後評価(原案)

小郡東部地区

令和2年11月

福岡県小郡市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	小郡市	地区名	小郡東部地区		面積	72ha
交付期間	平成27年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	281.3百万円	国費率	0.4	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設〔甘木鉄道沿線サイン整備事業〕、既存建造物活用事業（中心拠点誘導施設）〔市内古建築物整備事業〕
	提案事業	地域創造支援事業〔観光資源PR事業〕

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	—	—
	提案事業	事業効果調査事業	事業効果調査は行わず、市が直接実施することとしたため。	指標への影響なし。
新たに追加した事業	基幹事業	なし	—	—
	提案事業	なし	—	—

交付期間の変更	当　初	平成27年度～令和元年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	変更なし
	変　更	なし		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	対象駅の１日乗降客数		人／日	416	平成25年度	420	令和元年度	—	330	△	あり		油屋とその周辺の観光利用により、乗降客数の維持に一定の効果が見られた。	—
											なし	●		
指標2	観光入込客数（社寺・文化財・史跡参拝見学）		人／年	24,000	平成24年度	25,000	令和元年度	—	37,443	○	あり		復原により、油屋周辺の地域資源やイベントなども開催され、多くの方に観光資源としてアピールすることができた。	—
											なし	●		

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1													

4）定性的な効果発現状況

旅籠油屋の復原が完了し、松崎宿への外部からの見学者が数倍になったことに加え、市民が施設を使用してギャラリー展示会を開催するなど、郷土愛の増進に大きく寄与している。

5）実施過程の評価

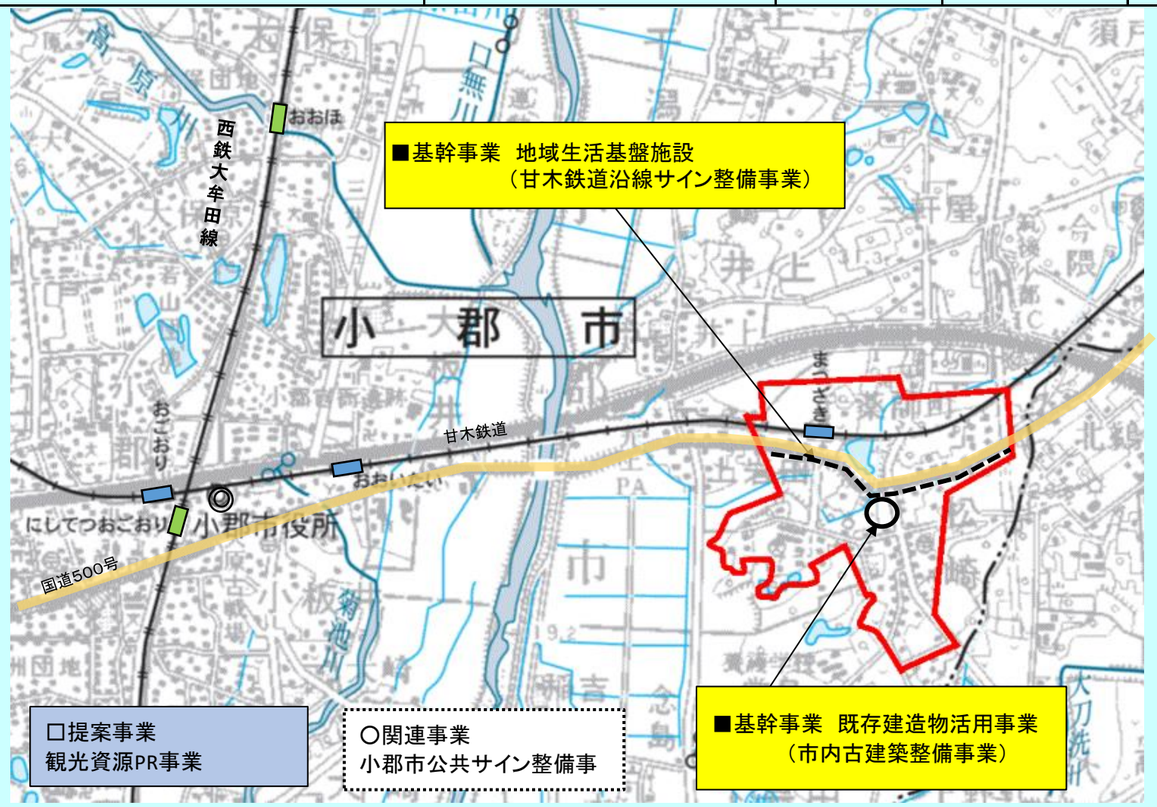
	実施内容	実施状況	今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	

様式２－２　地区の概要

小郡東部地区（福岡県小郡市）　都市再生整備計画の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：歴史的な地域資源を活用した観光に復興の実現に向けた取組 目標1：歴史的史跡やサインの整備、近隣市町との観光回遊ルートの設定を進め、地域の伝統を継承しながら、観光客の増加により、にぎわいのあるまちづくりを推進する。	対象駅の鉄道利用者数(1日平均乗降客数)	単位：人／日	416	H25	420	R1	330	R1
	観光入込客数(社寺・文化財・史跡参拝見学)	単位：人／年	24,000	H24	25,000	R1	37,443	R1

体験型イベントの様子

甘木鉄道沿線サイン



まちの課題の変化	事業実施前も、旅籠油屋は松崎宿の重要な地域資源であったが、建物の損傷が激しく、一部の見学に供するのみであった。しかし、解体・復原により旅籠油屋は江戸時代の姿を取り戻し、一度に多くの観光客を受け入れることができるようになった。さらに、旅籠という多くの部屋を有する構造的特徴を生かし、市民によるギャラリー展示会の開催など、これまで考えられなかった活用を進めている。また、拠点的な地域資源としての位置付けが確立されたことにより、甘木鉄道やJRを利用したイベントにも組み込まれ、さらには作成したパンフレットや整備されたサインによって、車での個人観光客も大きく増加している。 今後はさらなるPRや面的広がりを持った魅力づくりへの取組みが必要である。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	当事業の実施により、旅籠油屋の単体としての知名度は大きく上昇した。しかし、宿場内に残る南・北構口（市指定史跡）や本陣跡など、数多くの文化財（文化遺産）を含めた面的な活用は十分とは言えない。　今後は専任のプランナー等と連携しながら、松崎宿全体の活用、さらには小郡市域全体の文化財（文化遺産）の体系的な活用を目指して取り組みを進める。また、地域の賑わいづくりを推進するために住民の主体的な利活用を積極的に支援し、地区全体の魅力向上に取り組む。